

# 明石市 環境レポート2005



発行日：平成18（2006）年3月

目次

編集方針について・・・1  
 市長挨拶・・・2  
 自然環境の保全・・・3  
 地球温暖化防止・・・5  
 「循環型のまち・あかし」の実現に向けて・・・7  
 パートナースhip・・・9  
 環境コミュニケーション・・・11  
 環境マネジメントシステム・・・13

編集方針について

報告対象範囲  
 明石市（行政委員会の事務局を含む）の環境施策と事務事業

対象期間  
 平成16年度（2004年4月～2005年3月）  
 一部、平成17年度の情報も含んでいます。

URLマークについて  
 Webサイトで詳細な情報を掲載しているものについては、誌面上で以下のマークとURLを記載しています。

Web <http://>

参考にしたガイドライン  
 環境報告書ガイドライン（2003年度版）  
 環境省のWebサイト上で掲載されています。

Web 環境省Webサイト  
<http://www.env.go.jp/policy/report/h15-05/>

頂いたご意見について  
 今後、明石市環境レポートをより良いものとするため、市民の皆様からのご意見、ご感想を募集しています。頂いたご意見の一部は、市のコメントを併記して平成17年度の年次報告書～明石市の環境～に掲載します。

組織概要・作成部署

明石市役所所在地：〒673-8686 兵庫県明石市中崎1丁目5-1  
 市長：北口 寛人  
 人口：291,890人（明石市統計書 平成16年(2004年)版より）  
 職員数：2,803人（ 同 上 ）

作成部署及び連絡先：  
 環境部環境政策課  
 Tel：078-918-5029  
 e-mail：plan-ems@city.akashi.hyogo.jp  
 Fax：078-918-5107

ごあいさつ



平成17年2月に京都議定書が発効し、地球温暖化防止・持続可能な社会への国際的な枠組みが新たな一歩を踏み出しました。  
 明石市においても、地域の環境を持続可能なものにするための環境のまちづくりが求められています。  
 そのためには、市民の皆様と行政が思いを一つにして、手を携えながら一緒に様々な取り組みを進めることが肝要であると考えています。  
 そこで明石市では、明石市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の改正によるごみ減量推進員制度の創設、明石市の環境の保全及び創造に関する基本条例の改正による環境審議会体制の見直しなど、参画と協働による環境のまちづくりに向けた体制の整備を進めています。  
 こうした環境共生型社会の構築に向けた取り組みについて、市民の皆様がより一層の認識を深めていただき、共に行動を進めていくうえで、本書が契機になれば幸いです。

平成18年3月 北口寛人

主な関連資料の一覧、入手方法など

明石市では、市の環境の現況、及び環境の取り組みについて、より多くの市民の皆様とのコミュニケーションを図るため、以下のメディアを中心にして情報をお伝えしています。

明石市環境レポート2005

本冊子です。明石市の環境への取り組みについて、読みやすさ・分かりやすさを重視して、参画と協働の視点を切り口に編集しています。

その他、環境に関する各種条例・計画、明石市の環境マネジメントシステムの基本文書となる環境管理マニュアル、地球温暖化対策の推進に関する法律の規定により策定した明石市地球温暖化対策実行計画など、さまざまな情報を環境政策課Webサイトで公開しています。

Web [http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou\\_s\\_ka/ecoist/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou_s_ka/ecoist/index.html)

年次報告書 ～明石市の環境～

環境（大気汚染、水質汚濁等）の現況、環境基本計画に基づく施策の状況、明石市地球温暖化対策実行計画に基づく温室効果ガスの総排出量など、多岐に渡る情報を詳しく掲載しています。

環境政策課Webサイト(ECOIST)

明石市環境レポート、年次報告書～明石市の環境～の他、環境審議会や環境に関するイベントの情報を掲載しています。





# 自然環境の保全

写真 水辺の自然探訪

## 水辺をフィールドにした協働の活動

西島ため池協議会、地元のNPO（江井島だいすきの会）、水辺の保全や再生に取り組んでいるNPO（兵庫・水辺ネットワーク）が中心となって行っている「オニバス観察会」「ため池ドロンコ探検隊」を市と協働で開催しました。

また、江井島だいすきの会が主催する「水路をたどって」では、大久保掘割（山手小学校から西島大池までの水路）を歩き、講師・地元農家の方の話聞くことで水の価値を学びました。

兵庫・水辺ネットワーク、県と連携して水草・昆虫・水鳥の3部形式で行った「水辺の自然探訪～明石遺産ミステリーツアーへようこそ～」では、多くの方に明石の水辺空間の魅力を体感し、学んでもらうことが出来ました。



ため池ドロンコ探検隊



水路をたどって



水辺の自然探訪

江井島だいすきの会：地域の学校・水利組合と協働し、オニバス観察会・水路をたどってなどを毎年開催し、地域に密着した自然や環境の教育・啓発に関する活動を行っている。

兵庫・水辺ネットワーク：兵庫県下の水辺をフィールドとして活動している研究者や自然愛好家を中心となって、1996年6月に結成された組織。それぞれの専門や得意とする分野の枠を越えて、水辺に関する幅広いネットワークづくりを目指している。

Web 兵庫・水辺ネットワーク  
<http://mizubenetwork.cool.ne.jp/>

## 明石公園での水草植栽プロジェクト

自然再生の手法を開発することや、市内に残された水辺環境の大切さを市民に知ってもらうことを目的にして、兵庫・水辺ネットワークや県と連携し、在来のおニバス、ガガブタ、アンペライなど絶滅のおそれのある水草を明石公園内のため池に植栽しました。

しかし、ブルーギル、ミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）などの外来動物による食害を受けたため、平成17年度は食害対策を行って、再度挑戦しています。



明石公園内で水草の移植作業を行っている様子

## 森・里山を中心にした活動

森の探偵団が主催する「秋と遊ぼう！！ 森の勉強、ネイチャークラフト作り」のイベントに市が協力し、クラフト作りや野外体験学習を通じて、里山についての啓発に取り組みました。



集まれ！！クワガタ探偵団（平成17年8月開催）

森の探偵団：金ヶ崎公園を中心に、自然再生保全活動、野外体験学習を通じての人づくり、まちづくりを地域密着型で取り組むNPO。

## 市内自然環境についての広報

市内の豊かな水辺の生態系について、又、その生態系に悪い影響を与えている水質の悪化や、外来種について知ってもらうことを目的とした「知っとこ明石（ため池の自然編）」を平成16年7月に発行しました。

平成17年3月には、第2弾として、里山の面影を残す、自然豊かな金ヶ崎公園について掲載した「知っとこ明石（金ヶ崎公園編）」を発行しました。

知っとこ明石は、兵庫・水辺ネットワーク、森の探偵団、県、市などが協力して編集し、冊子として発行した他、環境政策課のWebサイトにも掲載しています。

Web [http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou\\_s\\_ka/ecoist/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou_s_ka/ecoist/index.html)



左「知っとこ明石（ため池の自然編）」  
右「知っとこ明石（金ヶ崎公園編）」



# 地球温暖化防止

写真 夏休み親子環境教室

## 市民と連携した啓発への取り組み

地球温暖化対策に関する知識の普及などに努める明石市内の兵庫県地球温暖化防止活動推進員（以下、温暖化防止推進員）と市が協働で、親子を対象にした温暖化についてのセミナーを開催しました。内容は、待機電力の実験、燃料電池の模型自動車を使った実験などでした。

その他、温暖化防止推進員との定期的な会議、平成17年2月に行われた環境フェアへの出展などを行い、市民への啓発活動に努めました。



夏休み親子環境教室

兵庫県地球温暖化防止活動推進員：「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいて兵庫県から委嘱を受け、地球温暖化対策の推進を図るために活動している市民。現在明石市内では、13名の温暖化防止推進員が活動している。主な活動内容などの詳細は、財団法人ひょうご環境創造協会のWebサイトを参照。

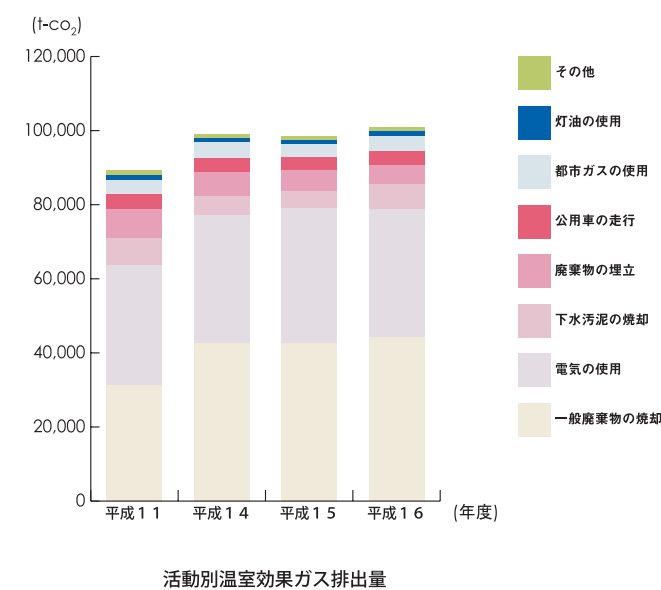
Web <http://www.heaa-salon.or.jp/>

## 活動別温室効果ガス排出量の推移

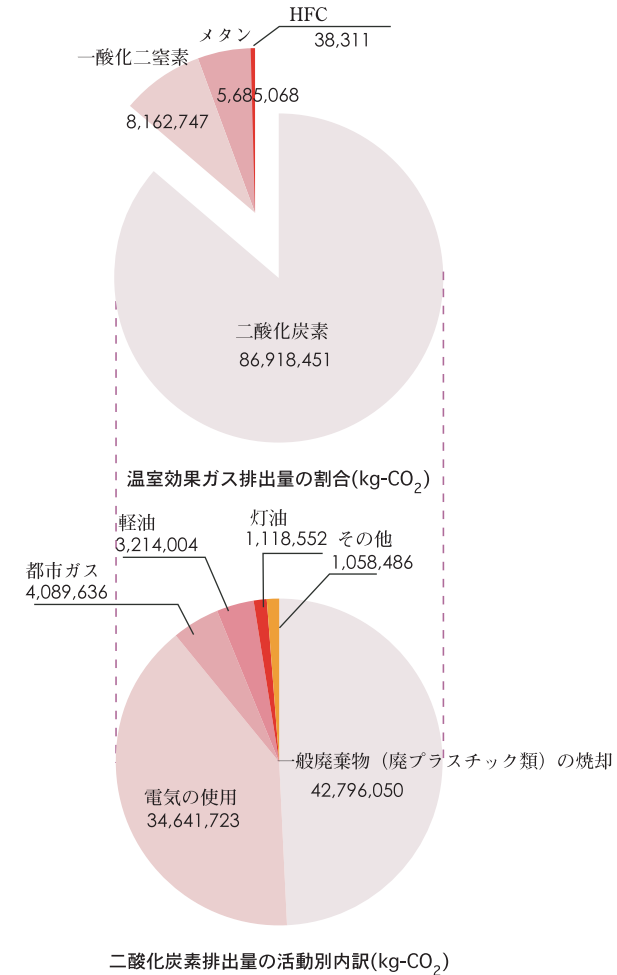
明石市では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、「明石市地球温暖化対策実行計画」を平成13年3月に策定し、毎年年度報告書～明石市の環境～によって温室効果ガスの総排出量を公表しています。

計画の対象範囲は、環境省の「地方公共団体の事務及び事業に係る温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」に基づき、市町村の職員が直接実施するものを対象としています。

計画の目標値は、平成17年度の温室効果ガス総排出量を、平成11年度と比較して3%削減に努めることですが、温室効果ガス排出量の約8割が廃棄物や上下水の処理など市民や事業者の活動に起因しており、目標値の達成は困難な状況です。



## 温室効果ガスの排出量内訳など



## 庁内での取り組み（エコオフィス、低公害車の導入）

庁内へのエネルギー投入量、原材料投入量、水資源投入量を低減し、地球温暖化防止を図るため、エコオフィス行動指針、低公害車導入計画などに沿って、冷暖房温度の適正設定（暖房期：20℃、冷房期：28℃）、OA機器の待機電力の削減、封筒などのリユース、低公害車（クリーンエネルギー車）の導入などに取り組んでいます。

## 廃棄物発電（サーマルリサイクル）

明石クリーンセンターでは、ごみ焼却熱を利用して発電するサーマルリサイクルに取り組んでいます。発電した電気は、明石クリーンセンター及び隣接する環境第2課の庁舎の施設で利用し、余剰の電力は関西電力に売却しています。平成16年度の発電量は38,620,370kWhで、14,830,222 (kg-CO<sub>2</sub>) の二酸化炭素削減に相当します。

## トピック 地球温暖化防止活動 環境大臣表彰



毎年度、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対してその功績を称えるために行っている地球温暖化防止活動環境大臣表彰「環境教育・普及啓発部門」の平成17年度の受賞者に、明石市在住の温暖化防止推進員でNPO法人環境21の会理事長の塩野勝氏が選ばれました。

塩野氏は温暖化防止推進連絡会の代表として明石市と協働でセミナーを開催し、家庭の省エネに繋がるような実験や紙芝居を通じて、参加者の地球温暖化防止への意識を向上させるような取り組みを行ってきました。現在でも各地で、地球温暖化防止を図る啓発活動を精力的に行っています。

## トピック 京都議定書の発効

1997年の気候変動枠組条約第3回締結国会議（COP3）で採択された京都議定書が2005年2月16日に発効され、地球温暖化防止のための国際制度が本格的に始動しました。これにより先進国などに対する二酸化炭素などの温室効果ガス排出削減が国際的な義務となりました。

日本は2012年までに1990年比で温室効果ガス排出量を6%削減することになりますが、2003年度の日本の温室効果ガスの総排出量は1990年比で約8%増加しており、合わせて14%の削減が求められています。



# 「循環型のまち・あかし」の実現に向けて

写真 再生資源集団回収

## ◎ 3Rを中心としたごみの減量化・再資源化の推進

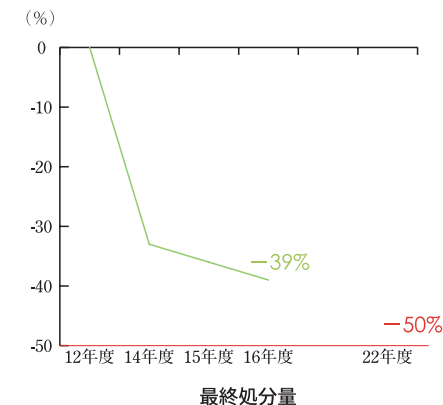
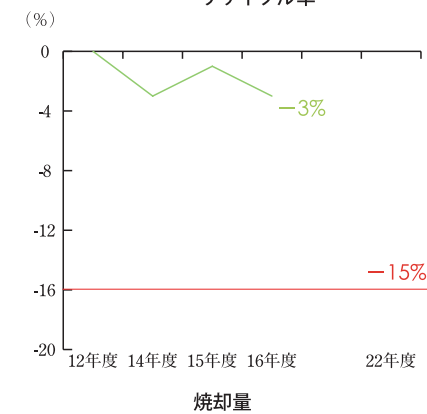
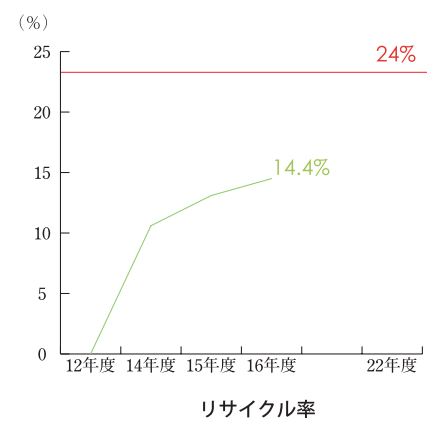
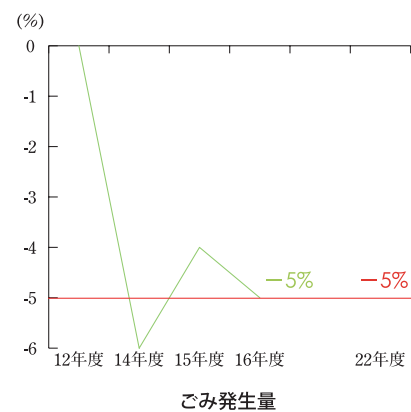
明石市では、平成15年2月に一般廃棄物処理基本計画を策定し、計画に基づいてごみの減量化、再資源化に取り組んでいます。

同計画は、3R（リデュース〔発生抑制〕、リユース〔再利用〕、リサイクル〔再生利用〕）を中心にごみの減量化、再資源化を進め、循環型社会の実現を目指すものです。

## ◎ 減量化目標の設定による計画の進行管理

基本計画については、減量化目標値を設定し、PDCAサイクルに基づく進行管理を行っています。

以下に、減量化目標値の平成14年度以降の3年間の達成状況を示します。いずれも基準年度は平成12年度で、目標年度は平成22年度です。なお、目標値はごみ発生量の5%削減、リサイクル率の24%確保、焼却量の15%削減、最終処分量の50%削減で、グラフ上では赤線で表示しています。



## ◎ 平成16年度に新たに行ったごみ減量化・再資源化事業

基本計画に基づくごみ減量化事業として、粗大ごみの戸別収集有料制(平成16年11月実施)、紙類・布類の分別収集(平成16年11月実施)、ごみ減量推進員・協力員の設置(平成16年10月開始 1,390名)、プラスチック製容器包装分別収集モデル事業(平成16年11月実施)などを、平成16年度に新たに行いました。

## ◎ 参画と協働の取り組み

明石市では、「ごみ減量推進員・ごみ減量推進協力員制度」を平成16年10月から実施しています。登録した1,390名の方々に集団回収を推進するための取り組みや、紙類・布類の分別収集の地域住民への徹底や不法投棄の発見・通報に取り組んでいただいております。地域の住民と市が連携してごみ減量を推進する体制を整えています。

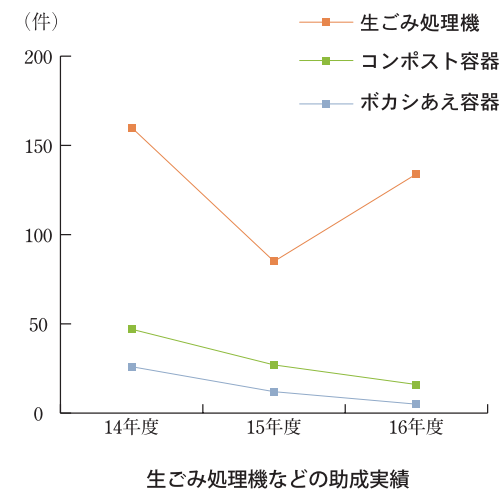
啓発関係では、環境部職員のなかから環境事業指導員を任命するとともに、分別変更等の地元説明会(220カ所、住民延べ12,000人参加)、集団回収の代表者の研修会、ごみ減量推進協力員の研修会をそれぞれ実施しています。



◎ ごみ減量推進員の取り組み

## ◎ 生ごみの自家処理、たい肥化の促進

明石市では生ごみ堆肥化容器および生ごみ処理機についての助成制度を設けています。生ごみ堆肥化容器、生ごみ処理機の展示会を実施してPRを行いました。



## ◎ 事業系ごみの減量化

市内61の大規模事業所、量販店に対して減量化計画書及び一般廃棄物管理責任者の選任届の提出を義務付けることで、事業系ごみの減量化を図っています。

## ◎ 庁内でのごみ減量化、リサイクルの取組状況

市ではリデュースの取り組みとして、文書の電子化を推進することによってコピー用紙などの紙の使用量を減らしています。また、封筒やコピー用紙の裏紙を再利用することで、リユースにも取り組んでいます。

その他、本庁を中心とした庁内に出る紙ごみは古紙回収によってリサイクルしています。

事務用紙使用量の削減、コピー用紙使用量の削減、ごみの排出の抑制は明石市環境マネジメントシステムに基づく環境目標値を設定しており、平成16年度の達成度は以下の通りです。

環境保全項目	目標	実績	達成状況
事務用紙使用量の削減	平成13年度比6%以上削減	平成13年度比50.9%削減	○
コピー用紙使用量の削減	平成13年度比6%以上削減	平成13年度比6.7%削減	○
廃棄物の削減	平成13年度比30%以上削減	平成13年度比38.4%削減	○

## トピック ごみとリサイクルのサイトのリニューアル

平成17年4月にごみとリサイクルのサイトをリニューアルし、ごみの出し方をより分かりやすい形で紹介している他、ブログやカキコまっぷ（用語の意味は、12ページを参照）などを用意し、Webサイトを市民とのコミュニケーションツールとして活用しています。

なお、この章で取り上げているごみ減量推進員・協力員、一般廃棄物処理基本計画などについては、ごみとリサイクルのサイトで詳しく紹介しています。

Web [http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/gomitai\\_ka/gomi/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/gomitai_ka/gomi/index.html)



# パートナーシップ

写真 まちと暮らしを変える環境講座

## ○パートナーシップ組織設立に向けた講座

明石市は市民、事業者との対等な関係に基づいて環境まちづくりを行うためにパートナーシップ組織の設立を目指しています。

そのための取り組みの一つとして、環境NGOの環境市民と協力して、「まちと暮らしを変える環境講座」と「協働コーディネーター養成講座」を開催しました。

「まちと暮らしを変える環境講座」は6回シリーズで、環境を切り口に経済・子育て・リフォームなど、様々なテーマについて開催することで、より多くの人に環境について関心を持ってもらうことを目的とし、「協働コーディネーター養成講座」は、行政・市民・NPOなどのパートナーシップ活動を促進させる協働コーディネーターのノウハウを取得することを目的としました。

協働コーディネーター養成講座では市内の自治会にチラシを配付した他、広報あかし、明石市ホームページなどで幅広く広報を行いました。参加状況は低調に終わりました。人材の確保に向けた他の手法も検討する必要があると考えています。

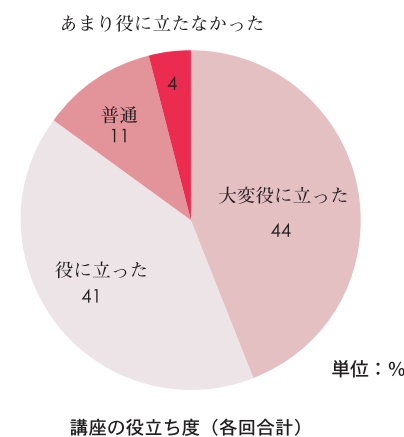
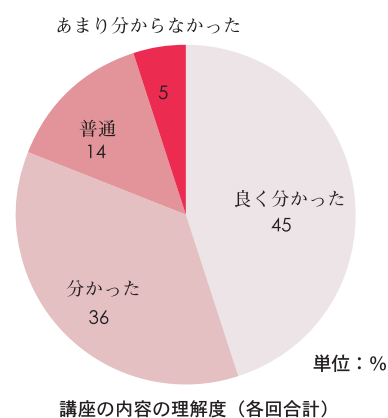


○まちと暮らしを変える環境講座

## ○まちと暮らしを変える環境講座の主な感想

- 第2回 働くことと環境 - 環境と経済について考える：「買い物でストレスを発散するなど、ライフスタイルが物質依存していることから、最近豊かさについてズレを感じていたので、生活様式を少しずつ変化させるのに役立つと思う」
- 第4回 教育・子育てと環境の意外な関係：「自分の子だけでなく、周りの子供（環境）も育てなければならない事に同感したが、実際は難しい」
- 第5回 住まうことと環境 - エコリフォームの考え方、しつらいの工夫：「住宅リフォームの話は、再利用のアイデア等、大変参考になった。今後の生き方、住まい方を考える取り掛かりになった」

## ○講座で行ったアンケートの結果



協働コーディネーター：行政や市民から独立した立場で、人々の合意形成を図りながら参画と協働のまちづくりを進める人。  
 環境市民：持続可能で豊かな社会・生活を実現することをビジョンに掲げ、エコシティーを創る・経済をグリーンにする・豊かなライフスタイルを創造する・エコロジーな次世代を育む・世界の人々やNGOと協働するという5つのミッションを掲げて全国的に活動している環境NGO。

## ○市民・NPOの活動支援

平成16年度からまちづくり活動に取り組む市民グループを対象にした明石市民実践活動助成事業を実施し、自主的にテーマを設けて活動する市民グループに資金面での支援を行いました。  
 25件の助成事業のうち、自然再生、ふん害問題、ごみ問題などの環境問題についての活動も数件含まれていました。  
 また平成17年3月には、市民による公益活動を促進するため、市民活動拠点施設としての機能を備えた活動の場「市民活動フリースペース」をあかし男女共同参画センター内（アスパア明石北館7階Tel：078-918-5606）に設けました。

## ○協働のまちづくりに向けた検討会議

協働によるまちづくりを推進するために「明石市協働のまちづくり推進検討会議」を平成16年10月に設置し、参画と協働の基本理念、市民公益活動の支援、コミュニティセンターのあり方などについての検討を行っています。  
 検討事項については、平成18年2月に提言書としてまとめて公表しました。



○明石市協働のまちづくり推進検討会議

## トピック 環境審議会・資源循環推進審議会への市民参画

平成17年9月に条例を改正し、環境審議会と新たに設置した資源循環推進審議会に公募の市民委員枠を設けることで、環境審議会・資源循環推進審議会への市民参画の体制を整えました。  
 環境審議会の議事録・資料などは環境政策課のWebサイトを通じて公表しています。

Web [http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyoku/kankyoku\\_s\\_ka/ecoist/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyoku/kankyoku_s_ka/ecoist/index.html)

# 環境コミュニケーション

## 年次報告書などによる 市民との環境コミュニケーション

明石市では環境の現況、環境の施策の実施状況について、年次報告書～明石市の環境～及び環境レポートなどの媒体で市民との環境コミュニケーションを行い、提出された意見について市の考え・対応を明記し、報告書の改善を図っています。

昨年発行した環境レポート2004についてもアンケートを通じて意見を伺い、17名の方から意見を頂きました。評価はおおむね好評で、「トピックとしてまとめてあり、読みやすい」「環境改善政策が多岐に渡って実施されていることをこのレポートで初めて知り、驚いている」などのご意見がありました。

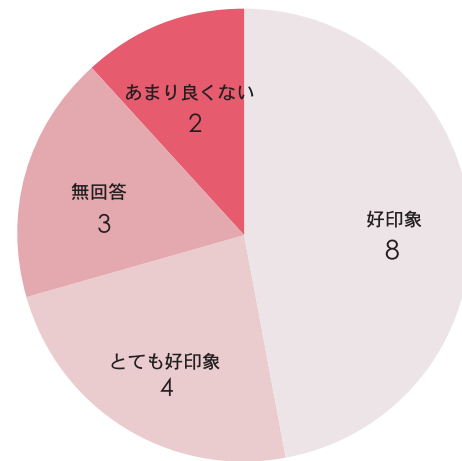
一方、「客観的な評価を行う必要がある」など、今後の課題となるような意見も頂きました。頂いた意見に対しての市の考え方は、平成16年度年次報告書～明石市の環境～に掲載しています。



環境レポート2004

年次報告書～明石市の環境～はCDとWebサイトで、環境レポートは冊子とWebサイトで公表しています。

詳しくは環境政策課のWebサイトをご覧ください。

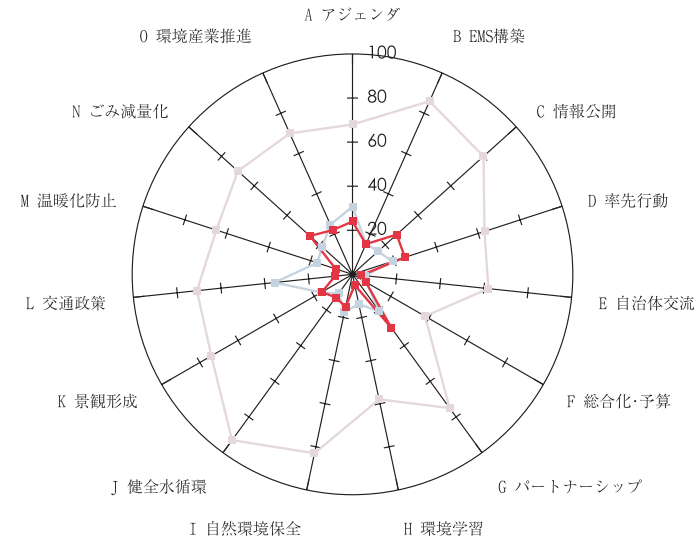


## 環境施策などについての外部評価

明石市では、学識経験者、市議会議員、事業者、NPOなどから構成する環境審議会（以下、審議会）を設けており、明石市環境基本計画に基づく施策や環境マネジメントシステムの現況などを盛り込んだ年次報告書～明石市の環境～について、毎年評価を受けています。平成16年度も審議会において意見を伺い、その回答を年次報告書～明石市の環境～内に明記しています。

また、全国の環境NGOで組織する環境首都コンテスト全国ネットワークが実施している日本の環境首都コンテストに参加し、明石市の環境に関する総合的な施策について客観的な評価を受けました。

結果は、参加した75自治体中34位でした。全国平均に比べて評価が高かった項目は、年次報告書などによる積極的な情報公開、環境を切り口としたパートナーシップ施策、住民への多様な働きかけを行っているごみ排出抑制などです。一方、全国平均に比べて評価が低かった主な項目は環境学習、交通政策、温暖化防止でした。



日本の環境首都コンテスト：環境自治体づくりを支援し、かつNGOと自治体、さらには自治体間の環境問題に関する情報相互交換を目的としたコンテスト。詳細は主幹事団体のNGO、環境市民のWebサイトを参照。

Web 環境NGO 環境市民  
<http://www.kankyoshimin.org/index.html>

環境の写真、環境政策課が市民やNPOと協力して行ったイベントなどの写真を取り揃えた ECOISTフォトギャラリーのページを新たに設置しました。

ごみとリサイクルのサイトでは、ごみの出し方や生ごみ処理機等購入助成制度などの情報の他、「ブログ」と「カキコまっぷ」機能を備えた「明石e-ごみゆにてい」のページを設けて、市民の参画と双方向によるコミュニケーションを図っています。

ブログ：時系列にWebページを自動生成するため、簡単にホームページを更新できる。他のサイトの記事との連携機能(トラックバック)や、コメントなどを備えているため、ユーザー同士のコミュニケーションの促進を図れる。

カキコまっぷ：東京大学工学部都市工学科都市計画研究室が全国各地のまちづくりに役立てようと開発した書き込み型掲示板。さまざまな情報を、インターネットで表示される明石市の地図上にコメントを付けて表示することができる。

Web 環境政策課Webサイト  
[http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou\\_s\\_ka/ecoist/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou_s_ka/ecoist/index.html)

Web ごみとリサイクルのサイト  
[http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/gomitai\\_ka/gomi/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/gomitai_ka/gomi/index.html)

## Webサイトによる情報発信

明石市は環境政策課とごみ対策課のWebサイト（以下、ごみとリサイクルのサイト）によって、環境についての様々な情報を発信しています。

環境政策課のWebサイトでは、年次報告書～明石市の環境～や環境についての各種条例や計画、環境学習支援制度で貸出しできる環境に関するビデオの一覧などの情報を掲載しています。また、平成16年度からは、明石市内の自然環



# 環境マネジメントシステム

## ○環境マネジメントシステムの概要

明石市は環境マネジメントシステム（以下、EMS）の国際規格ISO14001を取得し、EMSを行政経営の改善ツールとして位置づけて運用しています。

### ISO14001の取得の範囲

本庁舎、3市民センター、保健センター、明石クリーンセンター（管理棟・焼却棟）、中崎分署棟、市立市民会館、環境第1課（事務棟）、環境第2課、消防庁舎、大久保駅前区画整理事務所

### EMSの職員研修の状況

幹部研修：23名  
 新採用職員研修：36名  
 新任専門員研修：40名  
 新任環境活動責任者・新任管理職研修：42名  
 内部環境監査員養成研修：11名  
 内部環境監査員フォローアップ研修：25名

その他、環境方針、組織体制については平成16年度年次報告書～明石市の環境～第5章に掲載しています。

### 環境マネジメントシステム

目標設定・行動計画（Plan）、計画の実施（Do）、実施状況の評価（Check）、見直し・改善（Action）という一連のサイクル（PDCAサイクル）によって継続的な環境改善を図るシステム。

## ○環境目的及び環境目標

市では環境に負荷を与える事務事業について、環境目的及び環境目標（以下、環境目標）を設定している他、環境を切り口にして施策を改善するために、環境に有益な事務事業についても各課で環境目標を設定し、管理を行っています。

平成16年度の環境目標のうち、市全体で設定する環境目標の達成度は以下の通りでした。

環境保全項目	目標	実績	達成状況
電気使用量の削減	1%以上増加しない	0.8%の増加に抑制	○
都市ガス使用量の削減	1.5%以上削減	2.3%削減	○
ガソリン使用量の削減	1.5%以上削減	13.0%削減	○
事務用紙使用量の削減	6%以上削減	50.9%削減	○
コピー用紙使用量の削減	6%以上削減	6.7%削減	○
グリーン購入の推進	85%以上	89.4%	○
廃棄物の削減	30%以上削減	38.4%削減	○

平成16年度の環境目標（市全体）の達成度

## ○環境に関する法令遵守の状況

市では、環境に関する法令の制定・改廃状況についてはインターネット等で調査し、市の環境マネジメントシステムに反映させています。

また法令等における要求事項は、各職場でいつでも参照することが出来るように、グループウェアで管理しています。

## ○化学物質等の管理

PRTR法が適用される明石クリーンセンターでは、特定の化学物質について、物質の量を把握し管理しています。

また、市が保管するPCBについては「PCB廃棄物特別措置法」に基づいて管理している他、EMSに組み込み、緊急事態に備えた手順の作成とその試行を行っています。

## ○輸送に係る環境負荷の低減対策

明石市低公害車導入計画に基づいて、低公害車を積極的に導入することによって、大気環境の保全、地球温暖化防止への貢献を図っています。

平成16年度の導入台数は14台で、全公用車300台中48台が低公害車となりました。

## ○公共事業に係る環境負荷の低減

公共事業を進めるにあたっては、計画段階から環境に配慮し、環境に与える影響の低減に努めるため公共事業における環境配慮指針を定めています。

公共事業における環境配慮の実績は、平成16年度年次報告書～明石市の環境～第5章をご覧ください。

## ○内部環境監査

平成16年度の内部環境監査の結果は不適合が1件、観察事項（不適合には該当しないが、そのまま放置すると不適合になる可能性のある事項）が3件ありました。内容は、研修の時期の遅れ等でしたが、いずれも是正措置は完了しています。



○内部環境監査

## ○サーベイランス（定期審査）

平成16年度に行われた審査登録機関によるサーベイランス（定期審査）の結果、EMSはISO14001の要求事項に適合し、有効に稼働していると評価されました。評価された主な事項は、行政経営を改善するためにEMSを見直した点などでした。

## ○市長の見直し

EMSの見直しは、環境目標の達成状況・内部環境監査結果・外部審査結果などの情報を基にして、市長が総合的に評価し、次年度のEMSの改善に繋げるものです。

平成16年度の見直しは平成17年3月11日に行われました。その際の指示事項については、以下のとおりです。

- ① 環境方針を引き続き維持するとともに、環境マネジメントシステムをISO14001・2004年版に対応させ、併せて効率的な運用を実現するため、取り組みの実情に応じた簡素化を図ること。
- ② 各部門のPDCAサイクルを確実に実行させ、環境パフォーマンスを向上させるためには、各部門の実情に応じた効率的な取り組みが必要であることから、事務事業のみならず、エコオフィス活動に関する環境目的及び環境目標についても、部門毎に設定すること。
- ③ 環境マネジメントシステムによる行政経営の改善の要となるのが、内部環境監査であるから、内部環境監査の効率的な運用を含めたさらなるレベルアップを図ること。

## トピック

### 入札制度の改善

明石市では入札・契約制度の改善に取り組んでおり、平成17年7月から、公正な競争の促進、不正行為の排除の徹底、事業者の環境の取り組みへの配慮を目的に、従来の客観点数（経営事項審査結果通知書の総合評定値）に加え、ISO9001及び14001の認証取得、指名停止などを評価する工物品質評価型入札制度（試行）を新たに導入しました。

詳しくは、契約課のページをご覧ください。

Web [http://www.city.akashi.hyogo.jp/zaimu/keiyaku\\_ka/keiyaku/index.htm](http://www.city.akashi.hyogo.jp/zaimu/keiyaku_ka/keiyaku/index.htm)





オニバスは、大きいものだと直径2m近い葉をつけるスイレン科の植物。明石市は有数のオニバスの分布地ですが、近年その発生数は減少しています。  
写真：二見町の末々池（すずいけ）

編集・発行

明石市環境部環境政策課

〒673-0882 兵庫県明石市相生町2丁目5-15

市立保健センター4F

Tel : 078-918-5029 Fax : 078-918-5107

e-mail : [plan-ems@city.akashi.hyogo.jp](mailto:plan-ems@city.akashi.hyogo.jp)

URL : [http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou\\_s\\_ka/ecoist/index.html](http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/kankyou_s_ka/ecoist/index.html)